

第10号
No.10

平成29年11月1日発行

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所

T. I. M. E.

Tokyo Institute of Montessori Education

<http://montessori.or.jp/>

Chair Person Tamako Amano General Secretary Kazumi Aoki

理事長 天野珠子 事務局長 青木和美

Editors Ph.D. Masako Ejima Kazuko Hotta

編集委員 江島正子 堀田和子

〒112-0002

東京都文京区小石川2-17-41

富坂キリスト教センター2号館内

Tomisaka Christian Center 2

2-17-41 Koishikawa

Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

Tel. 03-5805-6786

Fax. 03-5805-6787

巻頭言

幼児のことばと「吸収する心」

東京コース コース長 前之園 幸一郎



モンテッソーリはある講演のなかで幼児のことばの発達について次のように述べた。誰であれ自然の営みに感嘆しない人はいない。季節ごとの夜空の星の整然とした運行や花々の調和に満ちた美しさや昆虫たちの知恵深い動きは文学や思索のテーマとされてきた。自然の神秘やその背後にある完璧な法則性は科学者たちまでも魅了して詩人にしてしまった。しかし造化の妙の最も典型的な神秘である「幼児のことばの発達」はこれまで当然視されて特別に注目されることはなかった。

彼女は改めて注意を促している。誕生してから2歳になるくらいまでに人種・民族・国籍・文化を問わず世界中の幼児が例外なく言葉を話すことができるようになる。この事実ほど驚嘆すべき神秘は他にないのではないか。彼女はそれが子どもの内部に存在する「目に見えない先生」によるものだとして「吸収する心」と呼んだ。最新の研究は、幼児も幼児なりの苦勞をしながらことばを獲得していることを明らかにしている。

3歳児の会話。子「お兄ちゃんきないね」母「うん、こないね」子「え、〈こないの〉？」母「うん、〈きた〉っていうけど〈こない〉なんだよねえ」そこへお兄ちゃん登場。子「あ、お兄ちゃん、こたよ！」

5歳児の会話。母「おてて洗わないでゴハン食べたらいきも一緒にお腹にはいるよ」子「…じゃ、これ食べたらいき死む？」母「いや、死んじゃったりしないよ、大丈夫」子「ホント？死まない？死まない？（涙目）」（『ちいさい言語学者の冒険』広瀬友紀著）

幼児は規則を過剰に一般化しようとする。マ行五段活用「飲む」「読む」の活用をナ行五段活用「死ぬ」に当てはめて「死ぬ」が生まれたい。大人にはもはや思い出せない。しかし幼児期における「人間の建設」の努力が現在の私たち大人を形成しているのである。

特別講義

障害児福祉教育へのモンテッソーリ教育の適用 —インクルーシブ教育を実現するために—

2017年9月13日（水）18:00～20:00

社会福祉法人からしだね理事長 春見静子先生



今年は、社会福祉法人からしだね理事長の春見静子先生から、障害児福祉と教育へのモンテッソーリ教育に関するお話伺いました。日本、ドイツ、アメリカにおける障害児福祉と教育の歴史の変遷をはじめに概観し、後半では、モンテッソーリ教育法を用いたインクルーシブ教育の実践例を、ミュンヘン統合幼稚園の実践のスライドを通して学びました。

ミュンヘン統合幼稚園は、ミュンヘン小児科センター内にあり、「障害児の早期診断・療育・研究・教育のための総合施設」として、モンテッソーリの統合幼稚園、モンテッソーリ小・中学校、クリニック、モンテッソーリ治療教員養成所などが一か所連携しあいながら活動しています。園には3クラス45名が在園しており、1クラス15名の内、さまざまな障害を持った子どもが5名います。教員は全員がモンテッソーリ教育の有資格者です。

全ての子どもに個性が尊重され、自由に安心して学べる環境が保障されることがますます重要になっていく現代社会において、今回のお話は時宜にあっており、大変良い学びの時となりました。

日常生活の活動担当講師 竹田 恵

研究所近況報告 「土曜コース開講とその他の活動」

東京モンテッソーリ教育研究所 理事長 天野珠子



研究所年刊誌「T.I.M.E.」もお蔭さまで10号の発刊となりました。早10年の歳月が流れたことになり、研究所設立（平成18年3月）の2年後（1回生がコースを修了した半年後）創刊号が出版されました。修了生へ今後の研究所情報提供と先輩の上智コース同窓生の方々の暖かいご声援を頂きたいとの理事たちの一致した意向もあってのことでした。上智コース同窓会は東京コース一回生の入会と共に「上智・東京コース同窓会」と名称を変更して共に活動するようにご配慮頂き、現在も活発に研修や見学をして頂いております。

この10年の間にルーメルコース長と文化主担当の野村恵先生のご逝去という悲しい出来事もありました。また社会福祉法人イクソス会の松川和昭理事長から横浜市戸塚に分室を計画してみたいとお誘いを受け土曜コースを開講して昨年3月ほとんどの方がディプロマを取得し現場で頑張っておられます。同年4月からはさらに保育園（横浜市金沢区）に分室を移し来年3月には修了生を送り出します。そうした情報が広がったのか近県や市部から分室の問い合わせもあり、それならいっそ富坂に土曜コースを加えれば各地から交通の便もよく今までの二カ所のノウハウを活かすだけでなく夜間コースと土曜コースを併設する方向で話し合い、この4月から開講しました。実施園からは大変喜ばれ応募者は増加しましたが、残念ながら夜間コースの希望者が開講条件に足りず今年度は土曜コースのみのスタートとなりました。水曜コースは今後も応募者次第では開講予定です。

その他にも、今夏は日本モンテッソーリ協会（学会）第50回全国大会が東京支部担当となりました。江島東京支部長のもとに東京在住のコーススタッフ（教師の約半数）全員が実行委員となり、さらにワークショップの担当も東京コースでした。こちらは4分野でいつも実施されますが今年は「文化」領域につながる各分野で行こうということになり打ち合わせにも時間をかけました。東京は他県に比較して全体的に物価が高くまたさまざまなイベントが企画されているため大学をはじめホテルも条件に合うところが見つからず江島実行委員長が四谷の都市センターホテルを見つけられた時には本当にホッといたしました。結果といたしましては、千名近い予定外の申込者に、会場がパンクしそうになり参加者に変なご迷惑をお掛けすることにもなりました。上智・東京コースの修了生や国際コースの応援もあり内容的には充実した50回大会であったと思います。

大会終了後、実技講習会（例年8月下旬開催）が「日常」分野担当で富坂を会場に行われました（別掲の報告書をご参照ください）

来年3月には、富坂夜間コースと土曜コース（分室）合わせて30数名の修了生を送り出す予定です。皆様の陰ながらの応援に感謝して研究所近況報告とさせていただきます。

第9回 実技研修会 報告

平成29年8月26日（土）10:00～16:00



恒例になった上智・東京コース実技研修会、今年の領域は“日常生活の活動”でした。

今回は、日常生活の活動の大切な要素である「運動」、とりわけ「手の働き」に焦点を絞り、乳幼児の生活を映像で紹介し話をさせていただきました。その後、「手の発達」を援助する教具の作成をしました。予定をはるかに超えた46名の参加者がとても熱心に耳を傾け、楽しそうに教具制作に取り組んでいました。

いくつか行った教具提供は、「ともするといつの間にか丁寧さがなくなっていた日頃の提供に気づいた」という方もおられ、原点に返った研修となったようでした。

日常生活の活動担当講師 溝脇しのぶ

第50回全国大会（創立50周年）開催について

50回大会実行委員長 江島正子

日本モンテッソーリ協会（学会）創立50周年全国大会は2017年8月8日（火）～8月10日（木）、都市センターホテルで開催されました。ワークショップとシンポジウムは東京コースが担当し、みんなで協力し合って大成功でした。



日本モンテッソーリ協会（学会）創立50周年全国大会実行委員会 打ち上げ会 四谷 主婦会館にて 2017年9月22日

東京モンテッソーリコースの入講式お祝いの言葉

富坂子どもの家 勝間田万喜

第二椎の実子供の家 高麗奈津子

コースへの入講おめでとうございます。

20数年前に、モンテッソーリコースの入講式に身を置いた当時、期待より不安の多かった日のことを思い出します。

お祝いの言葉を述べさせていただくには実習園になったばかりでおこがましいのですが、仕事やご家庭、二足、三足のわらじを履きながら、モンテッソーリ教育を学ぼうとなさる皆様のエールとなればと少しお話させていただきます。

富坂子どもの家では、〇歳児から就学前の乳幼児で発達支援の必要な子ども達が10人前後のグループで生活しています。見学者からいただく感想は「障害があってもなくてもおんなじ子どもなんですね。」「もっとあばれたり騒がしいと思っていましたが穏やかですね。」「障害児がこんなにいるんことを自分でできるなんて思いませんでした。」等です。子ども達の障害は様々です。スタッフが多いわけでもありません。ではどうしてでしょうか？

それはモンテッソーリ教育の理念と環境で保育をしているからでしょう。

十分にはできていないのですが、「大切なんだ」と信じて実践していくと、「自分の椅子を運びたいから運ぶ」「やりたい活動だから順番を待てる」「困っている仲間に助けを差し伸べる」といった子どもの姿が無理なく引き出されるのだと思うのです。

「自分で選び、やってみる。うまくいかなかったら助けを求め解決方法を知る。」

「好きな活動を安心してじっくりくりかえしできるように環境を準備しておく。」

「モンテッソーリ教育法の最終目的は人格形成である。」

この3点のことは皆さんがこれからコースで繰り返し学ぶことでしょう。

私は、導かれるようにご縁をいただきながら、ドイツ、京都、東京と恵まれすぎているほどのモンテッソーリ教育の恩師たちのもとで、学んできました。それぞれの土地の文化風習、言葉、園の環境、教具の提示の方法はどれも異なっていました。それでも、モンテッソーリ教育の理念がしっかりとぶれていない環境にいる子どもの姿は共通しています。

「自分で決めて行動できる」子どもです。「失敗を恐れなくて挑戦する」子どもです。

みなさんは、これからコースの授業で、たくさん学んででしょう。コースが一番近い園から寄り多い時となるようにお祈りしています。



やわらかな春風に心華やぐ季節を迎え、この良き日に第12期生の入講式が行われること、心よりお喜び申し上げます。

入講される皆様は、モンテッソーリ教育に携わる教育の現場で働く方や教育に興味を持たれた方など様々であると思いますが、共通することは、幼児教育に関わる人的環境の一部になる方たちであるということです。

私も上智コース時代、勉強をさせていただいたことを思い出します。

その頃モンテッソーリ教育に出会わなければ知る事の出来なかった、子どもの真の力に気づかせて頂いた講師の先生方に今でも感謝しております。

知れば知るほど子どもの力のすごさと共に、かかわる教師の重要さに驚き、また自分がその大人の立場であることに気付くと、もっともっと勉強をし、子どもを観察し、良き援助者になろうと思いました。

子どもの内なる力とはどのような力なのか、当コースの理論や実践、貴重な実習を通じ、皆様が学ぶ喜びを経験できたら良いと思います。

また、世界中の子どもたちが、幸せに成長する教育現場を作り上げる一員として学ばれますようお願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

図書紹介

日本モンテッソーリ協会（学会）編
『50年のあゆみ』

——昨日、今日そして明日へ——
2017年、98頁。



群馬医療福祉大学大学院教授
理論 文化講師 江島正子

東京コースの母体である日本モンテッソーリ協会（学会）の創立50周年全国大会が2017年8月8日（火）～10日（木）皇居と上智大学の中間に位置する都市センターホテルで開催されました。大会申込者は千人でした。東京支部が大会担当にあたっていたので、支部長の私が実行委員長・唐澤弓子先生が副実行委員長・三浦直樹先生が事務局長で準備し、ワークショップは東京コースを担当しました。

この歴史的行事に際して本誌『50年のあゆみ——昨日、今日そして明日へ——』が学会事務局のもとに発行されました。写真や祝辞以外に、第1章 モンテッソーリ教育再認識の動きと日本モンテッソーリ協会の設立、第2章 日本モンテッソーリ協会（学会）の使命、第3章 実践園のあゆみ、第4章 モンテッソーリ教育の未来と日本モンテッソーリ協会（学会）、その他にも資料編として第3代会長クラウス・ルーメル SJ の名前をとった「ルーメル賞」、ドイツにできた「ルーメル通り」等が紹介された内容です。

長谷川京子著

『アトリウムの子どもたち』

——モンテッソーリの宗教教育』

サンパウロ、246頁、2017年、1800円+税



マリア・モンテッソーリの教育メソッドをカトリックの信条教育に適応したローマのソファ・カヴァレッティ先生の教育法を紹介した内容です。カトリックでは初聖体の準備教育がありますが、ローマでは週に1回、3～11、12歳の子どもたちがやってくる、宗教のお仕事をしています。モンテッソーリの宗教教育の本としては、学苑社から江島正子著『モンテッソーリの宗教教育』と、ドン・ボスコ社からソフィア・カヴァレッティ著 クラウス・ルーメル他訳『子どもが祈り始めるとき』があります。モンテッソーリ教育法に基づく宗教教育とはどういうことかを知るため、是非読んでみたい一冊です。

モンテッソーリの宗教教育とはどういうことかを知るため、是非読んでみたい一冊です。

平成30年度入講生募集のお知らせ

募集定員：夜間コース、土曜コース 各25名

出願期間：平成29年12月1日（金）～
平成30年1月17日（水）

出願書類：願書・受験票（所定用紙・写真添付）
最終学校の卒業証明書又は、卒業見込証明書
選考料（15,000円）の振込み金受領書のコピー

選考日程：平成30年1月21日（日）午後1時集合

場所：富坂キリスト教センター

内容：小論文（レポート）・面接

※詳細・入講案内は事務局までお問い合わせください。

Tel. 03-5805-6786 Fax. 03-5805-6787

Email: info@montessori.or.jp

平成28年度研究所活動報告

1. 会員の動向（平成29年3月31日現在）
 - ①新規入会 正会員 個人 なし 賛助会員 なし
 - ②退会会員 正会員 個人 なし 賛助会員 なし
 - ③会員数 正会員 個人 23名
賛助会員 1団体（2口）
2. 活動報告
 - ①教員養成事業 平成28年4月 第11期生 35名入講
平成29年3月 第10期生 15名修了
 - ②指導者支援事業 平成28年8月 第8回実践実技研修会開催、於 富坂キリスト教センター2号館 別棟教場「文化」
 - ③ホームページ等による広報事業
「モンテッソーリ教育」（学会誌）第48号に広告掲載、平成28年11月に「T.I.M.E.」第9号を発行。ウェブサイトを通じ、広く一般に東京モンテッソーリ教育研究所及び、付属教員養成コースの活動を発信し、モンテッソーリ教育の普及活動を行った。
<http://montessori.or.jp/>

以上
事務局長 青木和美

東京モンテッソーリ教育研究所 平成28年度収支決算

収入の部		単位：円
入会金		
	個人	0
	団体	0
会費収入		
	個人	230,000
	団体	10,000
事業収入		
	教員養成事業	16,889,135
	指導者支援事業	92,500
	広報事業	0
雑収入		
	受取利息	7,095
	雑収入	480
経常収入合計		17,229,210
支出の部		
事業費		
	教員養成事業	9,994,424
	指導者支援事業	66,821
	広報事業	125,027
管理費		
	人件費	263,608
	外注委託費	1,500,000
	会議費	44,000
	旅費交通費	8,780
	通信運搬費	140,036
	消耗什器備品費	0
	消耗品費	69,904
	修繕費	0
	印刷製本費	13,662
	光熱水費	34,267
	賃借料	303,456
	租税公課	364,525
	雑費	152,515
経常支出合計		13,081,025
当期収支差額		4,148,185
前期繰越収支差額		25,554,390
次期繰越収支差額		29,702,575

平成29年4月19日 上記の通り相違ありません。 事務局長：青木和美

編集後記

10年に1回まわってくるのが、日本モンテッソーリ協会（学会）の全国大会開催を準備することです。2017年の今年、協会の創立50周年であり、東京支部が担当し、ワークショップはモンテッソーリ教育の4領域を文化の領域とつなげて展開されました。大変な好評でした。わが国の仲間モンテッソーリアンはすごいですね。（江島正子）